

## ICT活用授業実践報告書

【 H24年度3年目研修 】

実施学年	3年	実施教科 (科目)	音楽	実施日	H24. 11. 6
単元名	山のポルカ				
本時の内容 (項目)	・電子黒板を使って鍵盤パート、リズムパートの練習 ・ペア学習 ・グループ学習				
本時の目標	音の響きや組み合わせることの楽しさに気づき、リズム打ちパートと鍵盤ハーモニカパートの演奏ができるようにする。				
授業場所	音楽室・教室①	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・ <u>個別学習</u> ・ <u>グループ学習</u>		
ICT活用場面	<u>導入</u> ・ <u>展開</u> ・まとめ・他( )		ICTの主な 活用者	教師 ・ <u>生徒</u>	
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	児童の興味関心を大切にする。 個別に学習を進めることができる。(楽譜が読めない子も音で確認ができる) 仲間と共に学習を進めることができる。 音やリズムを自分たちで確認することができる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容	児童が活動を進める際に、自分で操作できるようにしておく。 正しい演奏を確認したり、ペアの子の演奏と比べたり、音を重ねて演奏したりする活動で使えるようにしておく。				
利用するコン 텐츠名・サ イト等	自分で作成 (スマートノートブック使用)				
参考にしたサ イト・文 献等	なし				
事前の準備	スマートノートブックで練習用のプログラムを作成する 他教科にも電子黒板を取り入れ、操作に慣れておく				

<p>指導計画 (授業の展開)</p>	<p>1 前時までの学習の振り返りをする  2 本時の学習の課題を確認する  3 曲に合わせて演奏ができるように、ペア学習をする  ・電子黒板を使って、活用したい情報を子どもたちが主体的に選択しながら学習ができるようにする  4 グループ交流をする  ・曲の重なりを楽しめるようにパート別で演奏をしてみる。  5 演奏会をする  6 振り返り  ・学習プリントを使って振り返りをする。ペアの子や自分のよいところをみつけて発表をする。</p>	<p>(※情報モラルの指導内容)</p>
<p>ICTを活用した授業時の教師側(指導上)の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが自ら簡単に操作がしやすいように、学習ソフトの画面はわかりやすく簡単なものにする。(操作のボタンなどにイラストを使い、どのパートを選択するのか、わかりやすいレイアウトをする)</li> <li>・曲を選ぶと、音だけではなく楽譜の画面も表示できるように工夫して作成した。</li> </ul>	
<p>ICTを活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業から電子黒板を使う機会があるので、画面をタッチしたり練習したい項目を選択したりすることに戸惑うことはなかった。</li> <li>・どの音源を使ってどのパート練習をするのかを自分で考えて、曲を選択して練習を進める活動を通して、自分で考えて学習を進めることができたという実感が持っていた。</li> </ul>	
<p>ICTを活用した授業後の評価(実践の手応え)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を自分で操作したいという意欲から、進んで学習する姿がみられた。</li> <li>・本時の練習パートだけではなく、前時に学習したパートと今回のパートを組み合わせ、音を重ねながら練習するなど、電子黒板をうまく活用できるよう児童が工夫する姿がみられた。</li> <li>・休み時間などにも同じプログラムを使って自主的に練習をする姿がみられた。</li> </ul>	
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の音源のテンポを動かすことはできないので、一度テンポが合わなくなると最後まで演奏できずに戸惑う子もみられた。</li> <li>・学習用のプログラムを作成するのに時間がかかり事前準備の手間が多く必要なので、すぐに使用するのは難しい。</li> <li>・常時電子黒板を教室に置くということが難しいので、計画的に活用できるようにしていけるよう学習計画を立てる</li> <li>・どの活動で電子黒板をとどのように活用し、子どもたちのどの力を育てたいのかを明確にすることが大切だと感じた。</li> </ul>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。